

地域包括ケアネットワーク No.17

浅口市の地域包括ケアシステムと医師会の関わりについて

みわ記念病院 柚木 昌

浅口市では昨年11月に、「地域包括ケアシステムの構築に向けて」と題して岡山県保健福祉部長寿社会課の坂井容子氏による研修会が開催された。高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するために地域包括システムの構築に向けた地域支援事業の充実のため以下4つの項目の推進が紹介された。現在の医師会の関わりについて現状を述べてみたい。

① 在宅医療・介護連携の推進について

多くの診療所が往診はしているが一部の在宅支援診療所の認定を受けている診療所と在宅支援病院の連携医以外は365日24時間対応はできていない。今後医師会会員で話し合いがもたれる必要がある。また介護施設やスタッフとの連携ではまだまだ十分とは言わないが、浅口では以前より毎年医師会員とケアマネージャーとの連携を深めるために講演会と親睦会を開催し継続してきている。さらに「浅口で医療介護について勉強する会」も年数回開催しており、毎回100名程度の介護スタッフが参加し熱心に勉強していることは心強いし、それは介護スタッフが医療的なことで苦勞していることをうかがわすものだとも思われる。なお、晴れやかネットを利用した連携シートの「むすびの和」の普及についてのモデル事業は残念ながら、今のところ進んでいない。

② 認知症施策の推進

認知症の早期発見と対策が大切なことは周知なことであるが、この件に関しても医師会ができることは、会員自身が認知症の早期発見のスキルを磨くための手伝い（講演会開催や資料提供）と予防のための取り組みに参加し、認知症サポーター養成講座に協力することがある。今後検討したい。

③ 地域ケア会議の推進

本来医師会もかかわるべきだが、今のところ時間的な制約（昼間の開催）のため医師会会員の参加ができていない。現状では参加は困難であるが、たとえば曜日ごとに動ける会員の登録をしていて開催時間に対応していくことができるか検討してみる必要がある。

④ 生活支援サービスの充実・強化

多くの予防対策が行われているが、現実にはほとんど医師会員の参加はないと思われる。唯一できることは各地域で催されるサロンなどの高齢者の集まりの席に医師会員自らがどんどん参加し、医療知識の提供とともに顔なじみになり、何でも健康相談できる関係を作り健康増進に寄与することであろう。